

全体最適のあり方・設計手法のあり方について（素案）

1. 全体最適とはどのようなものか

個別要素の工場製作が進み、資機材の転用等によりコストが低下、普及が進むための全体最適とはどのようなものか

（案）

- ・ 調査・設計から施工、維持管理・更新までのプロセス全体の最適化（設計、施工、メンテナンスのしやすさ）
施工段階の省力化だけでなく、設計の簡素化や点検や更新の容易さの観点も含めた効率化とする。
- ・ 建設現場だけでなく、工場、輸送なども含めた最適化
工場製作方法や輸送方法などの効率化を図り、建設現場、工場などの全体での最適化を図る。
- ・ 全国の事業の最適化（スケールメリット）
個々の事業だけではなく、全国の事業を想定した最適化を図る。
- ・ 標準規格の部材を基本とした設計
現場毎に詳細な寸法を決めるのではなく、標準規格化された部材を組み合わせて活用する設計とする。
- ・ 部材のサイズ等の規格の標準化
部材のサイズを標準化すれば、型枠等の転用が可能となり、コスト低下が期待できる。

2. 優れた工法を採用するための発注方式とは（設計・工事）

設計業務や工事で優れた工法を採用するためにはどのような発注方法が考えられるか。

（案）

- ・ 技術提案のテーマに生産性向上（工期短縮等）を設定する
- ・ 設計段階から施工者が関与する方式（E C I方式）や設計・施工一括発注方式などの活用